

平成 30 年 11 月 28 日

スチュワードシップ活動に関する報告

パインブリッジ・インベストメンツ株式会社が実施したスチュワードシップ活動の要旨について報告します。

(1) 議決権行使

投資先の企業価値の向上や持続的成長を促すための最も重要な手段と捉え、当社の責任と判断の下で議決権を行使しました。なお、議決権行使の状況につきましてはホームページに開示しております。

(2) 投資先企業の状況把握

投資先企業の的確な状況把握を図るため、当社アナリストは投資先企業が開催する説明会だけでなく個別のミーティング等にも積極的に参加した結果、平成 29 年 10 月から平成 30 年 9 月までの活動回数は 2,269 回となりました。

(3) エンゲージメントへの取り組み

昨年度に引き続き、エンゲージメントのモニタリング対象を当社の投資ユニバースとし、投資構成比率上位、今後の重要な投資先候補、重要な個別テーマ等を勘案してエンゲージメント目的を持った対話)を行う投資先企業を選定しました。

エンゲージメントにおいては、各担当アナリストが投資先企業の経営陣と企業価値の向上や持続的成長を促すための重要な個別テーマについて建設的な議論を行い、当社の考え方を伝えています。

(4) 自己評価

投資先企業に対しては、当該企業の業界に即した課題を取り上げながら、企業の競争優位性、戦略へのインプリケーションについて、意識的に対話を行いました。具体的には、環境対応環境対応製品の拡販戦略や生産設備及びサプライチェーンの環境負荷、児童労働や新興国等での適正な労務管理(サプライチェーンを含む)及び国内における外国人労働者の就労管理についてのポリシーや管理手法の未整備、会計不正への対策、キャッシュフローの使い道(設備投資ニーズがない場合は DOE や自社株買いの方針)、ESG 関連情報のディスクロージャー改善に向けてのフォローアップ等について対話を行いました。

(5) 今後の取り組みについて

世界規模で ESG の取り組みが各産業の競争優位性を変化させています。企業、個人を問わず、これまでの製品やサービスの価格や質、供給力等における優位性に加え E (環境)、S (社会)、G (ガバナンス) に適合しているか、あるいは ESG を改善させるかという観点から企業や製品が選ばれる時代に移行しています。投資先企業がこうした時代の変化に適切に組み、こうした時代の変化を株主価値向上につなげていけるような戦略的課題や開示といったテクニカルな課題について、ディスカッションを継続していきたいと思えます。また各産業ごと、各企業ごとに ESG の課題は異なっており、また課題そのものも時代とともに変化しています。それぞれの企業に即した課題は何なのかを見極めつつ、相互に意味のあるエンゲージメントとなるよう引き続き努力してまいります。

以上